

親切運動41年目の
新たな挑戦

広島電鉄株式会社



昭和52年7月、広島県に県本部が誕生しました。
12月には、広島電鉄株式会社が運動に加入。
以来41年、日々の仕事に
親切を取り入れて活動しています。
この度、広島県本部（もみじ銀行）、広島銀行と
合同であいさつ運動に取り組みました。

一日のスタートはいいさつから

4月5日・6日、広島駅前の広電広島駅停留場で、広島県本部の森本代表をはじめ広島電鉄、広島銀行、県本部事務局であいさつ運動を実施しました。

通勤客や乗客の方々に、「おはようございます」「いってらっしゃいませ」とあいさつをしながら、「小さな親切」八か条ポストカードと絵葉書を配布しました。あわただしい朝にもかかわらず、大勢の通勤通学の人たちが足を止め、あいさつをかえしてくれたり、配布物に目をとおしてくれたり……。初めは緊張していましたが、次第に大きな声がでるようになりました。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。広島にも多くの観光客が訪れることでしょう。あいさつは、人

間関係の第一歩。定期的な活動にしていきたいと思えます。
（報告 広島県本部事務局）

あいさつ運動に参加して

広島県本部事務局から、広く地域の皆様に「小さな親切」運動を知っていただきたいとお話があり、早朝の広電広島駅停留場通路で、朝のあいさつ運動を行いました。

今回、この運動に共感してくださった公益財団法人日本盲導犬協会島根あさひ訓練センター職員の方々とPR犬も加わり、嬉しいプラス・ワン！で「今日も一日健やかに」という気持ちを通勤通学のお客様に伝える事ができました。

（広島電鉄（株）研修課 佐古登志子）



「小さな親切」八か条カード（広島県本部の活動紹介入り）と絵葉書（ポスターコンクール入賞作品入り）を配布しました。

HIROSHI

『小さな親切』誌にみる 広島電鉄の親切運動（抜粋）

■昭和59年11月号・クローズアップ

広島電鉄は、従業員2,450名。電車170両、バス715両、その走行距離は、一日に地球を2.9周できるほどの距離である。

「安全、快適、正確、迅速」を使命とし、明るく住みよい地域社会の創造に寄与しようとする広島電鉄「小さな親切」の会を発足させた。

具体的な活動としては、まず耳から伝える手段として、市内電車や市内及び郊外のバスの車中で、社員から募集した標語「一つゆずれば笑顔が二つ」の後に、席譲りの協力をお願いするスポットアナウンスを行い、「小さな親切」の実行を呼びかけている。延べ回数にして、1日約5,800回。



次に視覚にうつたえる活動として、市内電車125両、約4,500本の吊革に、「小さな親切」明るい社会などの標語を入れてピール。さらに、市内を走るバスの全車両（235両）に「小さな親切」のステッカーを貼付した。

この他には、定期的に実行章を推薦。多数の参列者が見守る中、堀江会

長（広島県本部副代表・広電グループ「小さな親切」の会代表）から社員に実行章を贈呈。また、社内報に「小さな親切」コーナーを設け、実行章の記事や親切にまつわる様々な出来事を紹介。日本列島クリーン大作戦にも、毎年大勢の社員が家族連れで参加している。

■昭和54年5月号・「小さな親切」実行章

路線バスの運転手である長尾学さんは、バスを乗り間違えた体の不自由な子どもを、勤務終了後に自宅まで送り届けました。

お礼状

ぼくがバスに乗ったとき、見かけない子だと思ったと帰りの車の中で言っておられました。ぼくも何となく、いつものバスと違うなと思いました。そして、廿日市を過ぎたとき、乗り間違えたことに気がつきました。

誰かに言おうと思っても声にならず、ぼくは逆方向へ行くバスに乗り換えて帰ろうと思い、おじさんや周りの人の言うこともきかずにバスを降りました。けれど、バスはなかなか来ないし、家に電話をしようと思っても近くに電話がないし、悔しいやら情けないやらでした。

おじさんのバスが折り返してきたときは、もう飛び上がらなばかりでした。おじさんが自家用車で送っていったやろ

うと言われたときは、おじさんが神様のように見えました。

ぼくはこの貴重な体験をもとに、二度とこのようなことがないように、これから先一言いえるように、いろいろな人と、いろいろな場で触れ合っていきたいと思います。（杉原）

■昭和58年4月号・スポットニュース

広島電鉄ではより一層の運動推進をはかるため、近畿、中国地方の熱心な参加企業を歴訪した。訪問先は、奈良交通、岡山交通、大津洋興業、サンデン交通の4社。

■平成3年4月号・会員メッセージ

現在、一日約35万人のお客様に電車やバスをご利用いただいておりますが、このお客様一人ひとりに満足していただくことが、社是の実践になり、ひいてはあたたかな社会づくりになると思います。

「小さな親切」実行章を受けた社員からは「様に、「当然のことをしたまです」という言葉が返ってきますが、相手の方は大変感謝され、「青空のようにすっきりした気持ちで一日が過ごせた」などとおっしゃっております。

このように日頃の行動の中で、親切な行いを当然のこととして行う社員が増えてくれば、業績は向上し、社会を明るくすることになります。（広島電鉄株 教育課 住川智亮）